

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第82号

2018年2月3日

<http://www.australianstudies.jp/>

## 1. オーストラリア学会 2018 年度総会・全国研究大会 概要

日時：2018年6月9日（土）・10日（日）

会場：筑波大学（〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1）

※会場アクセス [http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba\\_access.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html)

担当：堤 純（筑波大学生命環境系）・津田博司（筑波大学人文社会系）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

### □第1日目 6月9日（土）

10:00 理事会

13:30 開会セレモニー

14:00～14:45 特別講演（豪日交流基金助成）：

ヘレン・ギルバート（東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）

15:00～17:30 豪日交流基金（AJF）助成企画

（その1）

“Contemporary Transformation of Australian Economic Geography”（同時通訳あり）

報告者：ケヴィン・オコナー（メルボルン大学名誉教授）

南出眞助（追手門学院大学）

吉田道代（和歌山大学）

堤 純（筑波大学）

コメンテーター：谷内 達（東京大学名誉教授）

18:00 懇親会

### □第2日目 6月10日（日）

10:00 一般個別研究報告

12:00 昼食休憩／理事会

13:00 総会

14:00～16:50 豪日交流基金（AJF）助成企画

（その2）

“1988年をふりかえる一入植200周年以降の先住民・非先住民関係”

報告者：栗田梨津子（広島大学）

津田博司（筑波大学）

一谷智子（西南学院大学）

討論者：窪田幸子（神戸大学）

藤川隆男（大阪大学）

加藤めぐみ（明星大学）

16:50 閉会挨拶

## 2. 第10期第4回理事会報告

日時：2017年12月3日（日）15:00～17:00

場所：成城大学3号館4階 共用研究室（3401）

出席者：藤田智子、花井清人、一谷智子、石井由香、鎌田真弓、加藤めぐみ、馬淵仁、南出眞助、佐和田敬司、

【報告】

1. 一谷理事より、学会誌進捗状況に関し報告があった。
2. 山内理事より、マイページの記入に関し会員へのリマインドの必要性が指摘された。
3. 石井理事より、会計中間報告があった。3年間の会費未納による退会者の問題が指摘された。
4. 花井理事より、会報発行業務に関する報告があった。
5. 津田理事より、ホームページ運営状況に関する報告があった。
6. 藤田理事より、フェイスブック（Facebook）運営状況に関する報告があった。
7. 佐和田理事より、AJF助成金の運用状況に関する報告があった。
8. 佐和田理事より、「日本におけるオーストラリア研究に関するアンケート」のデータ収集終了及び報告書作成予定に関し報告があった。
9. 鎌田理事より、地域研究会連絡協議会に関し、佐和田理事が出席予定であるとの報告があった。
10. 加藤理事、南出理事より FASIC 5 への参加報告があった。
11. 佐和田理事より、関東・関西例会に関する報告があった。

【事業計画】

1. 加藤理事より、学会誌（第 32 号）刊行の予定に関し報告があった。
2. 堤理事より、筑波大学で開催される 2018 年度研究大会準備状況に関し報告があり、了承された。
3. 佐和田理事より、AJF 助成金申請に関し、2018 年度研究大会への助成申請が決定され、入金済みであることが報告され、了承された。
4. 花井理事より、今後の会報発行、電子化に関して報告があった。次号（82 号）より電子化を開始するが、83 号などの学会直前号は紙媒体も並行させることが報告された。これに関し、マイページ登録・更新の徹底の必要性が指摘され、了承された。
5. 南出理事より、第 26 回地域研究会関西例会開催予定に関し報告があり、了承された。
6. 鎌田理事より、関東大会例会担当者の変更提案があり、了承された。

【議題】

1. 会員への案内及び広報に関して、会員メール、Facebook 等、会報の媒体を積極的かつ有効に利用する方法が検討され、了承された。
2. 国際文献社との契約更新に関して、石井理事より提案があり、承認された。
3. 2019 年度全国研究大会案に関し、鎌田理事より報告があり、了承された。
4. 1 名の入会と 1 名の退会が承認された。

【その他】

南出理事より、関西例会について設立の経緯と特徴、展望に関し報告があった。

### 3. 国際会議参加報告：第 5 回 FASIC カンファレンス

藤岡伸明（静岡大学）

2017 年 11 月 1～4 日に、中国・江蘇省徐州市の江蘇師範大学にて、第 5 回 FASIC カンファレンス（5th Foundation for Australian Studies in China Conference）が開催された。カンファレンスには約 60 名の発表者・討論者が中国、オーストラリアならびに諸外国から集まり、熱気あふれる発表と討論を展開した。FASIC からの招待を受け、本学会の加賀爪優会員（京都大学）、南出眞助会員（追手門学院大学）、加藤めぐみ会員（明星大学）、藤岡伸明（静岡大学）の 4 名が参加した（加賀爪会員は個人参加、他 3 名は学会からの派遣）。

今回のカンファレンスでは、“Australia-China: Transnational Connectivity” という全体テーマのもとで、基調講演と 13 のパネルセッションが開催された。それぞれのセッションでは、政治、軍事、外交、経済、移住、言語、文学、文化といった多様な観点から、中国とオーストラリアの connectivity について活発な議論が行われた。とりわけ領土・領海問題、国家イメージ、言論・教育の自由といったセンシティブなテーマに関わる議論では、熱を帯びた発言や討論も数多くみられた。

本学会員は、“Language and Transnational Connectivity”（加藤会員）、“Connectivity: Catalyst for Change”（加賀爪会員・藤岡会員）、“Roundtable: Australian Studies and Research Prospects”（南出会員）という 3

つのパネルで発表と討論を行った。4人の専門分野と発表内容はそれぞれ異なるものの、豪中関係をアジア太平洋地域の複雑・多様な国際関係のなかに位置づけて考えるよう促すという大きな問題意識は共有されていたように思われる。私見では、本学会員の発表（ひいては同カンファレンスにおける日本人研究者の存在意義）は、オーディエンスから好意的に受け止められたと感じている。これまでと同様、来年の第6回カンファレンスにおいても本学会員が招待されることを期待したい。

同カンファレンスでは、講演とパネルセッション以外にも、大小様々なイベントが用意されていた。主要なものとしては、ウェルカムパーティ（11/1夜）、会場校主催の cultural performance（11/2夜）、大学内および徐州市内のレストランでの昼食と夕食（11/2～3）、徐州市内観光ツアー（11/4午前）があった。いずれも豪華で力が入ったものであり、FASICの資金力とホスピタリティに圧倒され続けた4日間であった。私自身は語学力とコミュニケーション能力の不足により、これらの機会を十分に活用できなかったことが大いに悔やまれる。幸運にも来年の第6回カンファレンスに参加する機会を得た会員の方は、他の参加者と積極的にコミュニケーションを取り、ご自身の研究ならびに本学会の宣伝に役立てていただければ幸いである。

なお、同カンファレンスへの参加手続きに際しては、鎌田真弓代表理事より多大なるご助力をいただいた。また、渡航費・交通費に関して、本学会より海外学術大会参加助成制度によるご支援をいただいた。ここに記して心よりの感謝を申し上げたい。

#### 4. 第25回地域研究会（関西例会）報告

友永雄吾（龍谷大学）

第25回の地域研究会（関西例会）は10月14日に龍谷大学キャンパスプラザ京都にて開催された。今回の研究会にはオーストラリアとニュージーランドから報告者を迎えた。第1報告者であるトレス海峡諸島民と日本人の親を持つ先住民研究者マーティン・ナカタ氏（ジェームズクック大学教授）は、自身が携わった刑務所に収容された先住民男性のアンガーマネジメントに対する実践例を報告した。第2報告者である山田美智子氏（The Chris Ruth Centre Trust 職業支援員）からは、ニュージーランドのマオリの飲酒、ドラッグアディクト問題とその支援について、自身の経験にもとづいた発表があった。飲酒やアルコール依存さらには感情のコントロールに関する問題は、オーストラリアやニュージーランドの先住民に限らず、世界中の先住民が直面する喫緊の課題である。今回の2名の報告者は、こうした問題に対して現場で向き合ってきた実践的な経験を事例に、その現状と課題、さらにそうした課題への対処方法も含めた報告をされた点で意義のあるものであった。これらの報告終了後は研究者のみでなく、日豪協会の会員や学生からも質問があり、活発な意見交換がなされた。尚、参加者は関西のみでなく名古屋や北海道からの研究者に加え、オーストラリア人の研究者やオーストラリア先住民、関西日豪協会の会員、さらに龍谷大学の学生を含め計16名であった。

#### 5. 第26回地域研究会（関西例会）のお知らせ

※会員以外の方も参加できます。入場無料。

以下の日時・場所にて関西例会を開催します。

日 時：2018年3月17日（土）14：00～17：00

場 所：大阪府茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学 附属図書館3F オーストラリア・ライブラリー（下記のキャンパスマップ⑨）

<https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/campusmap.html>

連絡先：追手門学院大学国際教養学部 南出眞助 [minamide@otemon.ac.jp](mailto:minamide@otemon.ac.jp)

\*研究会参加者はできるだけ事前にメールをください。

\*研究会終了後にJR茨木駅周辺で懇親会を行います。参加希望者は必ず事前にメールをください。

交 通：阪急茨木市駅西口13：00発、またはJR茨木駅西口から線路沿いに南へ徒歩7分、「イオン茨木ショッピングセンター」北側13：10発の追手門学院スクールバスが便利です（無料）。

共通課題＜オーストラリア音楽の再評価＞

発表1 14：00～15：20 「ディジュリドゥの音と振動、精神世界への繋がり」

三上賢治（ディジュリドゥ奏者・アバロンスパイラル主宰）

〔要旨〕

先住民アボリジニに伝わる伝統楽器ディジュリドゥに出会って20数年間、音への追及を通じて「倍音」は

身体のみならず精神世界への意識的繋がりに高く関わっている事が分かった。その基本は、倍音を作り出す身体機能ハミングにある。唄や音の振動は心身の調和に必要なエネルギー源であり、世界の他の地域でも数百年、数千年と継承されている伝統儀式や儀礼に多くみられるように、精神世界へのアプローチにも必要不可欠なエッセンスであるといえる。

発表2 15:40~17:00 「オーストラリアの女性作曲家—クラシック音楽の場合—」

時田アリソン (京都市立芸術大学)

〔要旨〕

女性に男性より作曲家になることが少ないでしょうか。クラシック音楽の歴史では、ほとんど男性の作曲家が出てきます—バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、武満徹、湯浅譲二などで、女性作曲家の名前はなかなか出てきません。これは、女性作曲家がいないということではありません。音楽史には載らないのです。では、オーストラリアの場合はどうでしょうか。オーストラリアの作曲家は男女問わず世界的にほとんど知られていませんが、この発表では、オーストラリアの文化形成において女性作曲家の多いことと、そのことについて一般の認識が高いことを論じます。

## 6. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2017年5月に年会費を納入しても、2016年度未払いの場合、それは2016年度の会費となります。すなわち、2017年度は未納ということになります。また2015、2016年度未払いの場合、2015年度分の会費納入になります。

＜2016年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分(2016年度を含め最多3か年)を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当あてまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』(現在2017年3月発行、第30号)までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(アカデミーセンター)にご連絡ください。

## 7. マイページ登録のお願い

オーストラリア学会会員 各位

第10期理事会では、会員間の連絡をとるために、紙媒体の会員名簿の代替情報として「マイページ」を活用していくことにいたしました。会員間の交流の活性化のためにも、研究領域に関する情報は必須と思われると思います。お忙しい折に恐縮ですが、まだ「マイページ」のご確認・ご記入がお済みでない会員は、ご確認の上、ご記入をいただけますようお願いいたします。また、一部の会員には、会員メールが届いていないという意見が寄せられております。念のため、マイページにおいて登録されている最新のメールアドレスの確認をお願いいたします。

## 8. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿を希望する会員は、早めに編集担当理事・加藤(kato@sw.meisei-u.ac.jp)にご連絡ください。投稿に関する詳細は、学会ウェブサイト、「投稿要領」(2017年5月1日一部改訂)をご参照ください。

次の第31号の投稿は2017年8月31日で締め切りました。31・32号に掲載された論文は「第3回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、引き続き奮って投稿してください

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2018年10月30日です。編集作業の都合上、電子メールをご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当  
TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

## 9. 新刊書のご案内

納屋政嗣・永野隆行(編)『帝国の遺産と現代国際関係』勁草書房 (2017年11月刊行/292ページ/4,320円+税)

「冷戦終結後、グローバリゼーションは加速し続け、さまざまなガバナンスの制度や仕組みが新たに整えられていっているように見える。しかし、これらは新たに創出されたものではなく、帝国主義の時代に作られた制度や枠組みをもとにできあがったものではないだろうか? 各国・地域の分析を通じて、この問題を明らかにしていく。」(本書カバーより)

### 【諸届出/連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当  
TEL : 03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : asaj-post@bunken.co.jp

### 【オーストラリア学会事務局】

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学経済学部 花井清人研究室気付  
TEL 03-3482-9403 E-mail: khanai@seijo.ac.jp  
会費振込先 : 00190 - 3 - 157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当: 濱野健 (北九州市立大学) / 編集協力: 藤岡伸明 (静岡大学)]